

# 高梁市医療計画の成果・進捗状況(令和4年3月7日時点)

資料1

令和3年度に重点的に取り組む事項

通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項	成果・進捗状況
1	1 住民の医療需要が変化しても、適切な医療が受けられること	1-1 市内医療資源の最適配分に向けた医療機関等の連携強化	1-1-1 医療従事者の採用・配置等の人材政策や医療提供拠点の配置適正化等について市内医療機関等が連携強化して取り組む体制の構築に向け、市内医療機関と教育機関が連携して検討を推進します。	医療機関間の役割分担	医療機能における役割分担 ・市内医療機関の関係者等を交えた高梁市医療機関連携推進部会を年4回開催している。 (令和元年度) ・有漢診療所を令和元年12月1日から有漢地域センター内へ移転。 (令和2年度) ・市内医療機関の特性・連携状況をわかりやすくまとめたポスターを作成。 ・川上診療所から歯科部分を独立させ、新たに川上歯科診療所を4月1日から配置。 (令和3年度) ・高梁医師会が備北保健所、薬局、消防署と連携し、市内の新型コロナウイルス感染症の自宅療養者への電話診療を実施する医療提供体制「おうちで安心高梁方式」を構築。
2				担当地域における役割分担	・同上
3				医療機関同士が共同で実施する取組み	採用・配置等の人材政策 教育機関と連携した採用強化 (令和元年度) ・10月24日、11月28日に高梁高校で方谷学として医療に関する講義を実施。 (令和2年度) ・11月の校園長会で、キャリア教育として医療介護出前講座の提案。 ・7月の校園長会で、キャリア教育として医療介護出前講座の提案。 ・DVD「高梁市の医療」を市内小・中学校、高校へ配布。 ・10月22日、11月26日に高梁高校で方谷学として医療に関する講義を実施。 ・高梁市看護師等確保検討部会を新たに設置し、奨学金制度の拡充、見直しを協議。 (令和3年度) ・10月21日、11月24日に高梁高校で方谷学として医療に関する講義を実施。
4				医療機関間での医療従事者の異動、出向・派遣	(平成30年度) ・看護師が現時点で約20名不足している状況を把握。 ・診療所から病院へ放射線技師の異動が成立。
5				業務負荷を分散しつつ、医療提供体制を維持する仕組みの検討 医療提供拠点の配置適正化	(令和元年度) ・有漢診療所を12月1日から有漢地域センター内へ移転。
6				小児科の診療時間調整	(令和元年度) ・市内病院へ小児救急の調査を実施。 ・小児医療(救急含む)の現状を関係者で共有し、時間別の救急件数から現在の診療時間のままで対応することとなった。 ・緊急性のない電話連絡の件数も少なくないことから#8000の普及に努めていく。(市HPへUP済)
7				総合診療医の配置を含めた検討	
8				診療科の充実要望の優先順位付け	
9				設備の共有・共同購入	(平成30年度) ・同じ業者から医療材料の購入に向け始動。
10				連携体制構築を実効的なものにするための検討 医療現場のスタッフの理解深化	・検討委員会等での検討事項を各医療機関内で共有してもらうよう依頼。
11				病床数の検討	・介護医療院への転換等で市内の病床数は減少。(平成30年度と比較し、高梁中央病院▲32床、大杉病院▲84床、西医院▲15床と131床が減少。) 病床数 うち一般 うち療養 高梁中央病院 160 116 44 大杉病院 53 53 0 たいようの丘HP 240 240 0 成羽病院 96 54 42 尾島クリニック 19 19 0 ふじかわ眼科 6 6 0 合計 574 488 86 (R2.5.1)
12		1-2 医療提供体制の充実に向けた新たな政策的対応の検討	1-2-1 医療の供給強化が必要な範囲を特定した上で、投資対効果が見込まれる事業について、公的支援も含めた検討を推進します。	公的支援が必要な範囲	特に手当てを要する地域



通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項	成果・進捗状況
13				特に手当てを要する医療機能や診療科	(令和2年度) ・感染症に対応する病床整備に対する補助制度を新設。(高梁中央病院、たいようの丘HPが事業実施) ・地域医療提供体制の維持、継続と並行し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止・収束に向けて従事する医療従事者等に対するの協力金を予算要求。 (令和3年度) ・「高梁市新型コロナウイルス感染症対応医療協力金」を高梁医師会経由で、各医療機関の医療従事者等へ支給。 ・岡山県建設業協会高梁支部からの寄付をもとに、高梁医師会に所属する医療機関、近隣行政機関、消防署へオートディスペンサーを配布。
14			1-2-2 遠隔診療等の先進的テーマや新たなサービスモデルについて必要性を見極めてテーマを選定し、技術調査や参考事例調査を実施した上で、投資対効果が見込まれる事業について検討します。	政策的に推進されているテーマの把握	・国の規制緩和により、令和4年度より、初診からのオンライン診療は、原則かかりつけ医による実施で恒久化することとなり、ガイドラインの改定が行われている。
15				技術動向や導入事例の調査	(令和2年度) ・遠隔診療等の先進的な取組みを実施している地域への視察経費を計上。⇒視察は中止。 ・オンライン診療、オンライン服薬指導を実施している兵庫県養父市へオンライン視察を実施。
16				試験事業の検討	(令和3年度) ・オンライン診療に対応した電話診療システムを、高梁医師会が試験導入。
17	1 住民の医療需要が変化しても、適切な医療が受けられること	1-3 市内医療機関が一体となった市外医療機関との連携パス構築	1-3-1 市内医療機関で連携して、市外医療機関との送迎協定の締結等の連携強化に向けた検討を進めます。	高度急性期医療を担う市外の中核病院との連携	・平成28年度KDB、後期高齢者レセプトデータにより高度急性期・急性期で多くの市民が入院している病院は以下のとおり。 倉敷中央病院900人 川崎医科大学付属病院600人 岡山大学病院170人 岡山赤十字病院140人 国立病院機構岡山医療センター110人 (令和元年度) ・市外の中核病院と連携協定を締結する意向を関係者で共有した。 (令和2年度) ・7月22日に岡山大学病院、高梁医師会、市の3者で調印式を実施。 ・11月12日に倉敷中央病院、高梁医師会、市の3者で調印式を実施。 ・1月20日に川崎学園と市の2者で調印式を実施。 (令和3年度) ・倉敷中央病院と高梁消防署で、12月にドクターカーの運用を開始。 ・連携協定の具体化に向けて、2月に川崎学園と市長の意見交換会を実施。
18				市外の分娩可能施設との連携	(平成30年度) ・市内クリニックから市外の分娩施設へ紹介する体制が既に構築されていることを再確認した。 (令和2年度) ・市外中核病院との協定の連携事項の1つに周産期医療体制の確立に関する事項を掲げた。
19				市内医療機関から市外医療機関へ患者を紹介する仕組み	(平成30年度) ・市内医療機関へ送迎状況の調査を実施した。 (令和2年度) ・市外中核病院との協定の連携事項の1つに円滑な入退院に関する事項を掲げた。
20				市外医療機関で入院した後、市内医療機関への転院や退院に向けた連携	・同上
21	2 医療従事者が誇りを持って働ける、持続可能な地域医療	2-1 医療従事者の労働環境改善	2-1-1 医療従事者の働き方改革に向けて、市内医療機関が連携して検討を進めます。	組織横断的な人事異動、人事配置のあり方	
22				業務の効率化	患者とのコミュニケーションに充てる時間を確保できるようにするための業務改善 (令和元年度) ・看護師等の労働環境改善に関するアンケート調査を市内病院看護師を対象に実施し、取りまとめを行った。 (令和2年度) ・高梁かんばんとで上記アンケート結果を共有。
23				医師や看護師を中心とした業務量の偏在を解消するための役割分担の見直し	・同上
24				労働時間の改善	24時間対応の緩和に向けた施設間連携 ・訪問看護STの情報交換会を年4回開催。 ・より手厚い訪問看護の提供体制を推進するため機能を集約し多機能・大規模化を図る必要がある。(機能強化型3に向けての対策)



通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項		成果・進捗状況
25				待遇の改善	業務負荷等に見合った待遇の改善に向けた検討	
26					職住近接支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の引越費用等の助成事業について、平成30年度2件、令和元年度2件、令和2年度3件の申請が看護師からあった。 (令和2年度)</li> <li>・本市の定住施策一覧を市内病院へ配布した。 (令和3年度)</li> <li>・本市の定住施策一覧を市内病院へ配布した。</li> </ul>
27		2-2 医療従事者間のコミュニケーション改善	2-2-1 所属組織や職種を超えて医療現場に従事するスタッフの意見を交換する機会を設けます。	職種間での交流機会の増加	在宅医療・介護連携推進協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高梁市在宅医療・介護連携推進協議会を年2～3回開催している。</li> </ul>
28					多職種連携研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高梁市在宅医療・介護連携推進協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。</li> </ul>
29					市内医療機関で合同の研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高梁かごねっとでは、看護師のリーダー育成研修を市内4病院を会場に4回開催している。その他、フィジカルアセスメント研修などスキルアップ研修を10回以上開催している。 (令和元年度)</li> <li>・備北保健所が高梁医師会へ委託している「高梁地域在宅医療推進に向けた体制整備事業」を令和元年度からは市の委託事業として継続した。 (令和3年度)</li> <li>・在宅医療と介護の連携推進と地域医療推進に向けた体制整備の確保を図るため、「高梁市在宅医療・介護連携推進事業」について、高梁医師会へ委託し事業を継続した。</li> </ul>
30				職種間での交流機会に対する医師の参加の促進		<ul style="list-style-type: none"> <li>(平成30年度)</li> <li>・2回の多職種連携研修会で、延べ14名が参加。(新たな医師4名参加) (令和元年度)</li> <li>・2回の多職種連携研修会で、延べ9名が参加。 (令和2年度)</li> <li>・1回の多職種連携研修会で、4名が参加。 (令和3年度)</li> <li>・1回の多職種連携研修会で、6名が参加。</li> </ul>
31				情報共有のルール整備	入退院における支援ルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種が連携し、スムーズな入退院支援を行うことを目的に高梁市内の入退院支援ルールを作成している。その中で、病院、在宅担当者が円滑に患者さんの情報を共有し、コミュニケーションが図れるよう高梁版情報共有書を作成し、有効活用している。</li> </ul>
32		2-3 医療従事者の能力開発・育成機会の創出	2-3-1 医療従事者の能力開発・育成に向けて、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	プライマリ・ケア領域の強化	小児領域を含めたプライマリ・ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>(平成30年度)</li> <li>・産科医、小児科医参集の母子保健連絡会(市健康づくり課所管)が立ち上がった。</li> </ul>
33				患者の満足度向上	患者対応の改善	
34	2 医療従事者が誇りを持って働ける、持続可能な地域医療	2-3 医療従事者の能力開発・育成機会の創出	2-3-1 医療従事者の能力開発・育成に向けて、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	多忙な医療従事者も研修に参加できる環境の構築	業務負荷を分散する調整スキーム設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>(令和元年度)</li> <li>・看護師等の労働環境改善に関するアンケート調査を市内病院を対象に実施し、取りまとめを行った。 (令和2年度)</li> <li>・高梁かごねっとで上記アンケート結果を共有。 (令和3年度)</li> <li>・移動時間削減のため、研修会をハイブリット開催。</li> </ul>
35				学びやノウハウ共有に向けたヨコの繋がりを支援	組織横断的な教育・研修の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師を対象にリーダー育成研修や緩和ケア、皮膚・排泄ケア等の研修を順次実施。 (令和元年度)</li> <li>・摂食、嚥下研修会を8月21日に開催し、多職種110名が参加。 (令和2年度)</li> <li>・感染対策研修会を10月27日に開催し、看護師等約30名が参加。</li> <li>・ケアマネ研修会(感染症対策)を12月10日に開催し、多職種55名が参加。</li> <li>・高梁地域ホームヘルパー協議会ではコミュニケーションスキル研修会を2月20日に開催し、約70名が参加。 (令和3年度)</li> <li>・摂食、嚥下、食形態に関する研修会を12月18日に開催し、看護師等約80名が参加。</li> </ul>
36				現場に活かせる教育プログラムの検討	教育機関による卒業後を見据えた研修の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉備国際大学、順正高等看護福祉専門学校では、高梁医師会と連携し、「看護の魅力ガイダンス」を開催し、地域で働く医師や看護師等が授業を実施。 (H30.11.6/R元.7.1)</li> </ul>
37		2-4 医療従事者確保に向けた連携強化	2-4-1 地域全体の将来的な見通しを持った採用戦略の策定に向けて、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	地域合同での医療従事者確保に向けた体制づくり	本市の定住施策と連携した取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の引越費用等の助成事業について、平成30年度2件、令和元年度2件、令和2年度3件の申請が看護師からあった。 (令和2年度)</li> <li>・本市の定住施策一覧を市内病院へ配布した。 (令和3年度)</li> <li>・本市の定住施策一覧を市内病院へ配布した。</li> </ul>
38				人材が必要な時期、場所、職種、人数、スキルの明確化		



通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項	成果・進捗状況	
39				医師確保に向けたアプローチ	岡山大学医学部地域枠卒業医師の獲得	・各医療機関の代表者や行政が県地域医療支援センター主催のWSへ参加し、地域医療を担う医師を地域で育てるための意見交換を行っている。
40					医療法等改正の動向を踏まえた県へのアプローチ	(令和元年度) ・7月29日、11月27日に地域医療構想調整会議で医師確保計画、外来医療に係る医療提供体制計画の協議を行った。
41				看護師確保に向けたアプローチ	本市の医療従事者養成学校における、地域医療の魅力を伝えるカリキュラム等の市内就職を促す取組み	(平成30年度) ・11月6日に吉備国際大学で看護の魅力ガイダンスを開催。 (令和元年度) ・7月1日に吉備国際大学で看護の魅力ガイダンスを開催。 ・8月8日に小中学生を対象に広がる子どもの夢事業で医療現場体験を吉備国際大学で実施。 (令和2年度) ・6月22日(2年生:40名)、23日(1年生:40名、3年生:57名)に吉備国際大学看護学科の学生を対象に地域医療における高梁市の取組みを紹介。
42				市外の医療従事者養成学校の学生に向けた、市内医療機関で一体となったPR	・4病院、医師会、市が一体となり、市内外の医療従事者養成学校へ働きかけを行っている。卒業生へのアプローチも依頼。 (令和元年度) H31.4.18 順正高等看護福祉専門学校、吉備国際大学、岡山・建部医療福祉専門学校、県立真庭高等学校、新見公立大学(5校) H31.4.23 岡山県立大学、川崎医療短期大学、倉敷翠松高等学校、倉敷看護専門学校、玉野総合医療専門学校、旭川荘厚生専門学校(6校) ・8月13日に市内病院見学会を開催し7名が参加。 (令和2年度) R2.7.15 順正高等看護福祉専門学校、新見公立大学 R2.7.16 県立真庭高等学校 R2.11.19 井原高等学校、興譲館高等学校 R2.11.24 新見高等学校、共生高等学校 R2.12.18 高梁城南高等学校、日新高等学校 ・10月31日に市内病院見学会を開催し5名が参加。  (令和3年度) R3.4.21 順正高等看護福祉専門学校、吉備国際大学、岡山・建部医療福祉専門学校、県立真庭高等学校、新見公立大学(5校) R3.4.27 岡山県立大学、川崎医療短期大学、倉敷翠松高等学校、倉敷看護専門学校、玉野総合医療専門学校、旭川荘厚生専門学校(6校) R3.10.21 高梁高等学校 R3.10.27 日新高等学校 R3.11.1 新見高等学校、共生高等学校、井原高等学校、興譲館高等学校、高梁城南高等学校 ・市内病院見学会は中止。	
43				本市で働くことの魅力のPR	本市で働いている優れた医療従事者のPR	(平成30年度) ・高梁医師会で看護師募集のCMを作成。 (令和元年度) ・市では行政放送で地域枠医師や看護師を取材。
44					高梁で実現できるキャリアプランの明確化	・高梁高校の1年次生を対象とし方谷学として、市内で働く医師、看護師から地域医療、地域で働くことの魅力について講義を実施。
45				市内医療機関を知る機会の増加	研修受入れの増加	(令和元年度) 新たに順正高等看護福祉専門学校では、6月に高梁中央病院、大杉病院で6名が基礎実習に参加。12月にも高梁中央病院で3名が実習に参加。
46	2 医療従事者が誇りを持って働ける、持続可能な地域医療	2-4 医療従事者確保に向けた連携強化	2-4-1 地域全体の将来的な見通しを持った採用戦略の策定に向けて、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	奨学金制度の普及・改善		(平成30年度) ・吉備国際大学や順正高等看護専門学校の合格通知の送付、オープンキャンパス、入学時オリエンテーションの際に市奨学金チラシを配布することとした。 ・1度県南の病院等へ就職されても5年以内に市内の医療機関等へ就職される意思がある場合は、その間、返還を猶予できるよう規程を改正した。 (令和元年度) ・6月26日に市内中学3年生へ奨学金チラシを送付。 ・8月16日に市内高校へ奨学金チラシを送付。 (令和2年度) ・7月1日に高梁高校2、3年生に奨学金チラシを配布。 ・高梁市看護師等確保検討部会を新たに設置し、奨学金制度の拡充、見直しを協議。  (令和3年度) ・4月に県内看護学校、11月に高梁市、井原市、新見市の高校へ奨学金チラシを配布。 ・成人式の対象者へ奨学金チラシを配布。 ・次年度分貸付希望者の要望把握調査を実施。
47			2-4-2 市内医療機関における研修の質を向上させ採用に結びつくことを目指して、市内医療機関と教育機関が連携して検討を進めます。	本市で働くことの魅力のPR(再掲)	本市で働いている優れた医療従事者のPR	(平成30年度) ・高梁医師会で看護師募集のCMを作成。 (令和元年度) ・市では行政放送で地域枠医師や看護師を取材。
48					高梁で実現できるキャリアプランの明確化	・高梁高校の1年次生を対象とし方谷学として、市内で働く医師、看護師から地域医療、地域で働くことの魅力について講義を実施。



通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項	成果・進捗状況
49				市内医療機関を知る機会の増加（再掲）	研修受入れの増加 (令和元年度) ・新たに順正高等看護福祉専門学校では、6月に高梁中央病院、大杉病院で6名が基礎実習に参加。12月に高梁中央病院で3名が実習に参加。
50				奨学金制度の普及・改善（再掲）	(平成30年度) ・吉備国際大学や順正高等看護専門学校の合格通知の送付、オープンキャンパス、入学時オリエンテーションの際に市奨学金チラシを配布することとした。 ・1度県南の病院等へ就職されても5年以内に市内の医療機関等へ就職される意思がある場合は、その間、返還を猶予できるよう規程を改正した。 (令和元年度) ・6月26日に市内中学3年生へ奨学金チラシを送付。 ・8月16日に市内高校へ奨学金チラシを送付。 (令和2年度) ・7月1日に高梁高校2、3年生に奨学金チラシを配布。 ・高梁市看護師等確保検討部会を新たに設置し、奨学金制度の拡充、見直しを協議。
					(令和3年度) ・4月に県内看護学校、11月に高梁市、井原市、新見市の高校へ奨学金チラシを配布。 ・成人式の対象者へ奨学金チラシを配布。 ・次年度分貸付希望者の要望把握調査を実施。
51				研修内容の検討	(平成30年度) ・4病院の研修制度を把握するため、看護師確保に関するアンケート調査を実施。
52				研修受入れ先の職場環境改善	
53			2-4-3 潜在看護師をはじめとした離職者の把握、復帰支援について、市内医療機関、教育機関と連携して検討を進めます。	離職者の把握に向けた、地域で一体となったシステム構築	
54				離職者へのPR	(令和2年度) ・高梁かごねっとで潜在看護師確保に向け、ポスターを作成し掲示。 (令和3年度) ・県ナースセンターや高梁かごねっとでの医療現場への復職支援の取組状況について、広報紙9月号で紹介。
55				労働時間の改善（再掲）	24時間対応の緩和に向けた施設間連携 ・訪問看護STの情報交換会を年4回開催。 ・より手厚い訪問看護の提供体制を推進するため機能を集約し多機能・大規模化を図る必要がある。（機能強化型3に向けての対策）
56				その他の復帰支援の取組みの検討	(令和3年度) ・県ナースセンターや高梁かごねっとでの医療現場への復職支援の取組状況について、広報紙9月号で紹介。
57	3 子どもを産み育てやすいまちを目指した出産・子育てサポート体制の整備	3-1 市政の方針や人口ビジョンを踏まえた政策的対応の検討	3-1-1 保育・教育等の関連分野と連携し、予算制約等を踏まえた現実的な取組みについて関係者間での検討を進めます。	市内の医療機関が担うべき役割	(平成30年度) ・市内で分娩施設の設置が現実的ではないこと、現行の多様な出産、子育て支援サービスにより妊産婦の不安は少ないことを共有した。今後は、子育て世代ではない市民にもサポート内容を周知していく。
58				周産期医療を担う人材の育成・確保	助産師の育成・確保
59					産科医確保に向けた検討
60					医療機関間での周産期医療を担う人材の出自・派遣
61				市外医療機関との連携	出産サポートにおける役割分担 (平成30年度) ・市内で分娩施設の設置が現実的ではないこと、現行の多様な出産、子育て支援サービスにより妊産婦の不安は少ないことを共有した。今後は、子育て世代ではない市民にもサポート内容を周知していく。
62				関連分野との連携	出産直後の自宅生活サポート
63					出産に関する相談体制整備
64				市内の医療機関が担うべき役割	
65				小児医療を担う人材の育成・確保	小児科医の育成・確保
66					(平成30年度) ・市内で分娩施設の設置が現実的ではないこと、現行の多様な出産、子育て支援サービスにより妊産婦の不安は少ないことを共有した。今後は、子育て世代ではない市民にもサポート内容を周知していく。



通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項		成果・進捗状況
67				関連分野との連携	子育てに関する相談体制の整備	
68				出産・子育てに関して、受けられるサポートや利用できるサービスのPR		
69	4 地域での自立した生活に寄り添う基盤の整備	4-1 地域包括ケアシステム構築に向けた医療分野の関与強化	4-1-1 多職種連携の現場における意見を把握し、医療従事者が疲弊している現状にも配慮しながら、地域包括ケアシステム構築のために医療が担うべき役割や目標を検討します。	医療側が行うことの検討		・高梁市在宅医療・介護連携推進協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。
70				医療側が介護・福祉分野に求めることの検討		・同上
71				教育機関が医療機関と連携して行う取組みの検討	専門学科の学生による地域貢献	・吉備国際大学では、平成29年度から教養科目に「地域学概論」「地域貢献ボランティア」を新設し、ミニデイサービスや健康福祉のつどいの場で骨密度の測定などにより介護予防の普及啓発を実施している。 (平成30年度) ・高梁高校の進路担当者へ市内大学等への入学状況確認を行った。
72				やまぼうしの活用	診療情報の共有スキームの構築	(令和元年度) ・6月7日の連携支援システム検討部会にてWEB会議システムの操作説明会を実施。 ・9月27日の連携支援システム検討部会にてやまぼうしの基本操作の説明会を実施。 (令和2年度) ・6月26日に高梁医師会主催で晴れやかネット「シェアメド」説明会を実施。(26名参加) ・1月29日に「やまぼうし」説明会を実施。(50名参加) ・2月24日に「やまぼうし」操作説明会を実施。(25名参加) (令和3年度) ・10月28日にケアキャビネットの活用事例等の共有のため、総社市ICT部会へ参加。 ・11月8日に「やまぼうし」操作説明会を実施。(20名参加)
73				退院時カンファレンスへの参加職種の拡大		(平成30年度) ・WEB会議を活用した事例はあったが、今後の実用化に向けて検証が必要。
74				職種間での交流機会の増加(再掲)	在宅医療・介護連携推進協議会	・高梁市在宅医療・介護連携推進協議会を年2～3回開催している。
75					多職種連携研修会	・高梁市在宅医療・介護連携推進協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。
76					市内医療機関で合同の研修会	・高梁かごねっどでは、看護師のリーダー育成研修を市内4病院を会場に4回開催している。その他、フィジカルアセスメント研修などスキルアップ研修を10回以上開催している。 (令和元年度) ・備北保健所が高梁医師会へ委託している「高梁地域在宅医療推進に向けた体制整備事業」を令和元年度からは市の委託事業として継続。 (令和3年度) ・在宅医療と介護の連携推進と地域医療推進に向けた体制整備の確保を図るため、「高梁市在宅医療・介護連携推進事業」について、高梁医師会へ委託し事業を継続した。
77				情報共有のルール整備(再掲)	入退院における支援ルール	・多職種が連携し、スムーズな入退院支援を行うことを目的に高梁市内の入退院支援ルールを作成している。その中で、病院、在宅担当者が円滑に患者さんの情報を共有し、コミュニケーションが図れるよう高梁版情報共有書を作成し、有効活用している。
78			4-1-2 介護分野・交通分野と連携して、医療機関利用者の利便性向上に向けた通院支援や交通施策を検討します。	通院手段の充実	交通アクセスの空白地帯となっているエリアを中心として、生活福祉バスや乗合いタクシーの活用	(令和元年度) ・市内病院を中心に路線バスや乗合いタクシーの活用状況等の意見交換を実施。
79					バスの時刻と診療時間の調整	・既に病院の地域連携室等の職員がバス時刻に間に合うよう配慮している。
80			4-1-3 在宅医療を担う人員等の拡充に向けて、市内医療機関等が連携して検討します。	生活支援	在宅療養中の生活支援	・高梁市社会福祉協議会や市では、高齢者福祉事業の概要を取りまとめている。



通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項	成果・進捗状況
81				入院中の生活支援	
82				救急サポート体制の充実	・独居の高齢者を対象に平成22年度から救急医療情報キットを配布。これまでに延べ5,891名(R3.1月末)が登録され、迅速な救命活動に役立っている。
83				家族へのサポート体制の充実	空床活用による在宅医療患者の短期入院受入れ
84				医療従事者の確保	在宅医の確保
85					訪問看護師の確保
86				医療従事者等の役割の見直し	研修等による在宅医療の周知啓発 ・高梁市在宅医療・介護連携推進協議会において、年に2回程度多職種連携研修会を開催している。
87				医療従事者等の役割の見直し	看護師に求められる役割の変化(医療と介護の連携に看護師が果たすべき役割)についての検討 (令和元年度) ・1月31日に多職種連携研修会で患者の意思決定を引き出すコミュニケーションスキルについて学んだ。(参加者71名) (令和2年度) ・12月18日に多職種連携研修会(リモート開催)で小規模多機能型居宅介護等について学んだ。(参加者86名) (令和3年度) ・12月18日に多職種連携研修会(ハイブリット開催)で摂食・嚥下・食形態等について学んだ。(参加者77名)
88				在宅医療の関連多職種をコーディネートする職員の配置、役割、権限などの検討	・川上診療所では在宅医療コーディネーターを配置し多職種連携を強化している。
89				プライマリ・ケアの実践、患者本人の意思決定ができなくなる前に患者・家族と医療従事者が治療・療養の方針を話し合う、ACPへの取組み、在宅看取りへの対応等の検討	(令和元年度) ・9月25日に多職種連携研修会でACPの正しい理解と支援者としての関わり方を学んだ。(参加者69名) ・10月11日に県医師会主催のACP研修会を講師に岡山大学松岡順治先生をお迎えし開催。 (参加者57名) (令和3年度) ・11月4日に成羽支部愛育・栄養委員を対象とした研修会でACPリーフレットを配布。 ・12月22日に、講師に吉備国際大学門倉康恵先生をお迎えし、高齢者ケア施設等で働く看護職等の交流会を開催。 ・市内3団体へ、ACPに関する出前講座を実施。 ・ACPについて、広報紙11月号で紹介。 ・「自分らしく生きる」ための話し合いガイド、記入シートの作成
90				在宅医療の市内医療機関が取り組むインセンティブ  市内医療機関が効率的に取り組むための方策	
91		4-2 住民目線に立った説明の強化	4-2-1 住民が不安・不満を感じているポイントを踏まえて、市内医療機関の実績、考え方等についてのわかりやすい説明・訴求を強化します。	地域医療の実情 本市の優れた医療従事者のPR	(平成30年度) ・高梁市医療計画の内容を平成30年広報たかはし6月号で特集を組みPRした。また、座談会を開催し、吉備ケーブルテレビで放送した。 ・高梁市医療・介護市民公開講座を1月27日に開催。 ・高梁医師会で看護師募集のCMを作成。 (令和元年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を2月16日に開催。 ・市では行政放送で地域枠医師や看護師を取材。 (令和2年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を2月16日から吉備ケーブルテレビで放送。 (令和3年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を高梁市健康福祉のつどいと合同開催として、2月19日に吉備ケーブルテレビで放送。
92				市内医療機関で対応可能な疾患のPR	・同上



通番	基本方針	取組みの方向性	施策	考えられる検討事項	成果・進捗状況
93				受療のあり方 コンビニ受診の抑制	(平成30年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を1月27日に開催。 (令和元年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を2月16日に開催。 (令和2年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を2月16日から吉備ケーブルテレビで放送。 (令和3年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を高梁市健康福祉のつどいと合同開催として、2月19日に吉備ケーブルテレビで放送。
94				かかりつけ医の定着	・同上 (令和3年度) ・岡山県医師会の「認定かかりつけ医」となっている医療機関について、広報紙3月号で紹介。 ・2月に岡山県医師会主催の移動会長室「正しい薬の飲み方」研修会を完全オンラインで実施(約50名参加)
95				在宅医療の普及・啓発	・同上 (平成30年度) ・我が家で療養応援講座を3回開催。(参加者95名) (令和元年度) ・11月16日に看取りでの経験を語る会～人生の最終段階の過ごし方と在宅医療を考える～と題し、講演会を開催。(参加者200名) ・我が家で療養応援講座を3回開催。(参加者59名) (令和2年度) ・我が家で療養応援講座を1回開催。(参加者21名) (令和3年度) ・我が家で療養応援講座を3回開催。(参加者47名)
96				人生の最終段階における療養生活の過ごし方や医療などについて、家族や医師等と話し合うことの重要性	(令和元年度) ・11月16日に看取りでの経験を語る会～人生の最終段階の過ごし方と在宅医療を考える～と題し、講演会を開催。(参加者200名) (令和3年度) ・11月4日に成羽支部愛育・栄養委員を対象とした研修会でACPリーフレットを配布。 ・12月22日に、講師に吉備国際大学門倉康恵先生をお迎えし、高齢者ケア施設等で働く看護職等の交流会を開催。 ・市内3団体へ、ACPに関する出前講座を実施。 ・ACPについて、広報紙11月号で紹介。 ・「自分らしく生きる」ための話し合いガイド、記入シートの作成
97				市内医療機関の担う役割 市内の医療機関で受けられる医療についての適切な啓発	(平成30年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を1月27日に開催。 (令和元年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を2月16日に開催。 (令和2年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を2月16日から吉備ケーブルテレビで放送。 (令和3年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を高梁市健康福祉のつどいと合同開催として、2月19日に吉備ケーブルテレビで放送。
98				病院主治医と在宅医の二人主治医制の検討	(令和元年度) ・高梁医師会において、「訪問診療医師の会」が立ち上がり、訪問診療を始め、二人主治医制等の話し合いを実施。
99				市民参加型の場 医師が住民と直接対話する場の拡大・展開	(平成30年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を1月27日に開催。 (令和元年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を2月16日に開催。 (令和2年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を2月16日から吉備ケーブルテレビで放送。 (令和3年度) ・高梁市医療・介護市民公開講座を高梁市健康福祉のつどいと合同開催として、2月19日に吉備ケーブルテレビで放送。
100				市や一般社団法人高梁医師会のホームページの活用	(令和元年度) ・市HPへ高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～として平成30年度の成果を公表。 ・広報計画を策定し、計画的に医療の内容を広報した。 (令和2年度) ・市HPへ高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～として令和元年度の成果を公表。 ・広報計画を策定し、計画的に医療の内容を広報した。 (令和3年度) ・市HPへ高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～として令和2年度の成果を公表。 ・広報計画を策定し、計画的に医療の内容を広報した。